OMC News 大阪ムービーサークル

OMC事務局　〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局　〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
http://www6.ocn.ne.jp/~nakabc/omc-news/kaiho.htm

平成２７年７月(2015年)No 595

室津撮影会公開審査

撮影会14名参加で何と全員が作品つくる 最優秀賞は紙本氏の「港町室津」

去る4月4日(土)～5(日)に行われた兵庫県室津撮影会の作品公開審査を、このほど行いましたところ、コンテストには13本の作品が出品されて、この撮影会における皆さんの熱意のほどが伺われました。

1番良いと思った作品を3点、2番目に良いと思った作品を2点、3番目に良かったと思われる作品を1点として、会場に来られた17名の方が投票した結果、次の様な投票結果となりました。

■投票結果

・最優秀賞	「港町・室津」	紙本　勝さん	１４分３０秒
・優秀賞	「おんな港・室津」	前田茂夫さん	１４分５３秒
・秀作賞	「歴史を捨てた港まち室津」	河合源七郎さん	１０分００秒
・　〃	「室の泊に棹の歌」	森口吉正さん	１１分４０秒

以上の4本が選ばれ、トップの紙本作品は、OMC 6月例会で凱旋上映されました。なお、撮影会参加者14名の方のうち、13名がコンテストに参加され、これもすごい記録だと思っていましたが、当日の夜に開催されたOMC 6月例会で、残りの1名の方が一般作品として持参されたので結局全員が作られたということになり、皆々様の作品にかける情熱が痛いほど伝わってきました。

作品も、後で何回も行かれて撮り足したりされた方が多かったようで、内容的にも奥行きもあり、どれも甲乙つけがたい出来映えでした。

7月例会のお知らせ

7月例会は第4土曜25日の午後6時から難波市民学習センターにて開催します。
外は暑い盛りですが例会場は涼しいですよ。

第２例会は１４日（火）午後１時より

今月からOMC第２例会が始まります。こちらの例会にもぜひ参加して下さい。 作品について助言を受けたい方などどうぞ。勉強会も予定しています。

■**予告**：9月20日に行われるOMCフェスティバルのプログラム編成を行いますので、幹事の方は下記の日時にお集まりください。

・**日時：平成27年7月31日13時より**

・**場所：難波市民学習センター第一会議室**

撮影会作品リスト

1)室津　　関　剛　　10分50秒

2)はなやぐ小五月祭　鉄具嘉夫　10分0秒

3)歴史を捨てた港町室津

河合源七郎　10分00秒

4)おんな港・室津　岡本至弘　10分42秒

5)室の泊に棹の歌　森口吉正　11分40秒

6)港町・室津　　紙本　勝　14分30秒

7)春を告げる棹の歌

宮崎紀代子　11分57秒

8)遊女友君教化の地　野田邦雄　4分15秒

9)おんな港・室津　前田茂夫　14分53秒

10)室津散策　　有村　博　9分51秒

11)小五月祭のある町 進藤信男 14分55秒

12)室津の春　　高橋辰雄　9分05秒

13)室津の春　　江村一郎　7分40秒

■**短　評**(合原)

最優秀作品の紙本作品は、昨夏の祭りの場面を活用されて奥行きの深い作品となった。2位の前田作品、8ミリ時代に撮られた場面をPinPされているが効果に疑問も、3位の河合作品、言いたい問題点に絞って描かれて良かった。森口氏の作品は室津の歴史、遊女のことなど歴史を丁寧に描かれており、よい作品に仕上がっていました。岡本作品も良く出来ているが「終」が出てもナレが続く…。

６月例会のサポート

夏の季節ですが例会場は、ほどよい涼しさ。然し、午後からの撮影会コンテストの公開審査で長丁場となり、いささかお疲れの様子が見られるお方も…。

今月の司会は合原氏、書記、高瀬氏、映写担当、井上、河合の両氏、録画、江村氏、掲示係、紙本氏、受付兼照明係は華岡、宮崎の両氏でした。

出席者：赤澤、有村、井上、江藤、江村、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、高瀬、鉄具、華岡、野田、前田、宮崎、森口、森下、山本、吉村、渡辺、井脇の23氏。

■**上映：全作品BD**(講評は高瀬世話役)

１．ワーゲニンゲンに暮らす友人を訪ねて（BD）　江藤洋司　　１４分３５秒

ワーゲニンゲンというオランダの小さな町に住む友人を訪問された江藤さん、まず迎えの友人とユトレヒトの町を観光した後、ワーゲニンゲンの友人の家へ。友人の家族や町の風景、レストランなどとのさまざまな出会いから駅での別れまでを映像に収められている。オランダの小さな町の日常の情景を細かく撮影されており、全編ほのぼのとした雰囲気にあふれる作品となっている。ただ司会からも指摘があったが、何か分かりにくい。そもそもどういった友人なのか、紹介がないまま進み、テロップの内容が分かりにくかったりして、戸惑いが続く。テロップを再考されれば、ぐんと良くなると思います。

２．余部・久斗山へ登る(BD)
前田茂夫　　９分４３秒

まだ余部鉄橋がコンクリート橋に建て替えられる前、余部で一番高い山、久斗山に撮影仲間の江村さんと林正志さんの3人で登られた。もちろん山の上から余部鉄橋を渡る列車を撮影するためである。いくつもの余部の山に登られており、以前「余部を俯瞰で撮る」という作品を見せていただいている。
この時、登られたのは標高400mの最奥。今回の久斗山は標高640m、標高差200m以上である。登山道はなく獣道のような道なき道を登り、3時間かけて、ようやく撮影ポイントに到着。余部の集落と日本海を分けるような鉄橋の上を列車が行く。一番高い所から撮りたいという作者の思いが画面いっぱいに表現されている。下山し、ラストの夕日に染まる鉄橋を行く列車を下から写されたシーンも秀逸です。

３．友禅苑の秋（BD）

高瀬辰雄　　６分００秒

友禅苑は知恩院の傍にある友禅染の創始者、宮崎友禅斎ゆかりの庭園。以前、勤めていた会社で人手が足りないため、昨秋「ミス京都きもの」の女性２人を使った雑誌編集の手伝いを頼まれ、そのついでに作った仕事の余録のような筆者の作品。雑誌は次年の春号でモデル撮影は10月、庭園の紅葉は11月中旬の別の日に撮影したものです。

４．トスカーナ州南部（BD）

華岡　汪　　１１分５０秒

イタリアのトスカーナ州南部を訪ねられたいつもの海外旅行の作品。トスカーナ州南部のオルチャ渓谷は2004年に世界遺産に指定され、絵のように美しいなだらかな丘に古い街が点在する世界有数の景勝地。その渓谷のいくつかの街を訪れ、まとめられている。最初に訪れた小高い丘の街、ピエンツァはちょうど聖体祭花祭りが行なわれており、道路に花が敷き詰められ大勢の観光客であふれている。次のモンタルチーノの街は五角形の城塞が印象的。そしてシエナの街の大聖堂の白と黒の象嵌の床やフレスコ画は見応えがある。ポポロ広場ではお祭りの行列に出会われ、華やかな雰囲気を表現されている。昔は争いもあったが、中世から残る美しい街並みと伝統と平和を守り、豊かな暮らしを続ける街を訪れ、やすらぎを覚えた旅でした、とナレーションで締めくくられている。作者のそんな思いが伝わる作品です。

５．金比羅さん秋の大祭（BD）

鉄具嘉夫　　１２分００秒

10月10日、四国の金比羅さんにお参りされ、秋の大祭を撮影された。参道口から本宮までは785段の石段とナレーションで説明。そして参道の売店などのシーンがあって石段の上の境内に移る。境内から見晴るかす琴平町、讃岐富士、瀬戸内海の眺望が素晴らしい。午後２時になると、お供えが神殿に奉納され、いよいよ例祭が始まるようだが、神輿の出発は午後９時、それまで祭りの準備風景などを撮影し、かなりの時間待たれたようである。ようやく９時に神輿が本殿から出され、石段を下りて行く長いシーンが続くが、迫力がある。そして、♪こんぴら船々…の音楽が流れ、今からが祭りですというナレーションが入り、少し祭りの行列があって作品は終わります。祭りの本番をもう少し見てみたい気がしました。

６．舞洲ゆり園（BD）

有村　博　　７分２９秒

６月４日、此花区の人工島、舞洲で行なわれている「ゆり園」に行かれた。同園のHPを見ると「大阪湾に咲く250万輪のゆり」、昨年の200万輪からスケールアップし、今年は250万輪の色とりどりのゆりが大阪湾の海と空と競演、とある。天気は良く、遠くに見える明石海峡大橋、六甲山などスケールの大きな風景、そして空と海の青をバックに咲き乱れるゆりの花。白、黄色、赤、オレンジなど鮮やかな色のゆりの花を時にはアップを交え、見事なカメラワークで描かれている。花越しに大阪湾に沈む夕日も美しいようだが、残念ながら閉園時間や帰りの交通事情もあって撮影できなかったということです。

７．東津波　鎌倉踊（BD）

紙本　勝　　９分５０秒

紙本さんは城物語だけでなく、地方に伝わる祭りもよく調べて取材され、作品にまとめられている。今回は岐阜県の揖斐川流域の東津波に伝わる鎌倉踊という雨乞いの踊り。後鳥羽院に仕えた武士が都落ちして里に住み着き村人に踊りを教えたという。踊りの一行は太鼓８人、鉦鼓８人、横笛４人、唄方４人など総勢32人。揖斐川に架かる恋のつり橋から一行はまず町の振興事務所前で踊る。踊り手は背中に48本の真竹を割いて５色に彩色された長さ2.6ｍ、重さ14キロのホロを背負い、それが踊りに合わせ揺れ動く。踊りを巧みなカメラワークで捉えておられ、躍動感がある。ただバックが鉄筋のビルというのが惜しい。しかしその後、白髭神社に移動し、踊りを奉納する。こちらは杉木立に囲まれ、伝統の踊りにはぴったり。初めて見る珍しい踊りを堪能させてもらった。

８．賀茂神社小五月祭り（BD）

吉村健一　　１０分５３秒

４月の室津撮影会の作品。室津の町並み、祭りの準備をする人、港で働く人の風景から始まる。BGMに演歌が使われているが、それなりに映像に合っている。そして賀茂神社の境内へ。小五月祭りの宵宮の神事、笛の

演奏、棹の唄があり、次の日は本宮で、同じように神事や棹の唄の演奏があり、子供たちの踊り…と祭りを中心に順を追って編集されている。祭りに絞られたことで、まとまりのある作品に仕上がっていると思われます。コンテストに出品されなかったのが残念です。

９．貨客船の旅（BD）
山本正夢　　８分２０秒

貨客船とは文字通り、貨物輸送と客船がいっしょになった船。インドネシアのマッカサルを午前0時に船は雨の中、出港、2等船室に泊まられたようだが、鼾をかく人、眠られない人などで落ち着かない船室の様子が描かれる。朝、船内は乗客の荷物か物売りの商品か分からないほど物であふれている。乗客はどういった人たちなのでしょうか、旅行者は少ないように思われる。船はパレパレという港に着き、しばらくして次のバリッババンに向けて船が出る。この日は快晴で海と空の青が美しい。そして夜10時、バリッババンに到着し船旅は終わる。貨客船の中の人々の様子を巧みなカメラワークでとらえ、日が沈む大海原の情景の表現は秀逸。ただ、3つとも聞きなれない名前の港町で、どのような町なのか少し説明がほしいところです。

１０．兵庫県公館ウォークスルー（BD）
井上勝彦　　９分１２秒

兵庫県公館は19　02年（明治35年）、文部技官、山口半六氏によって県庁舎として建てられた。中庭を中心とした回廊式の壮麗なルネサンス様式の建物。兵庫県民なら見学自由ということで、井上さんは4Ｋカメラ搭載のスマートフォンをスタビライザーに取り付け、公館の中を移動撮影されている。門を入ると、ロダンの弟子、プールデルのアダム像などのある庭をなめらかな移動でカメラは進み、玄関ホール、レセプション会場、貴賓室など隈なく巡り、階段の上りもスームズで揺れはない。屋上庭園ではアコヤ貝の噴水の周りを速度を早めてカメラは回り、再び建物の中に入り、史料室で終わる。井上さん使用のスタビライザーはモーターの駆動で水平を保ち、揺れを防ぐ仕組みということである。なめらかな移動撮影は魅力です。

１１．青森ねぶた祭り（BD）
赤澤與三郎　　２０分００秒

青森のねぶた祭りを撮影されている。ラッセラッセ、ラッセーラーの掛け声とともに祭りのハネトが通り、迫力のある武者絵を描いたねぶたが登場。目の前を行くねぶたをアップを交えたカット構成で、編集されている。5台、6台とねぶたが次々に登場するが、作品の時間が20分と長く、例会終了の時間も迫っていることから、7月の第二例会で再度、上映することで了解をいただき、作品の半ばで映写を終了した。

１２．ゆとりのボタン寺（BD）
進藤信男　　７分３０秒

兵庫県豊岡市日高町のボタンの寺として知られる隆国寺を訪ねられた。この寺は応仁の乱で西軍の総大将、山名氏を支えた四天王の一人、垣屋隆国が自ら建立した菩提寺と、テロップで由来を説明。寺の描写から始まり、本堂の幸のとり観音像、本尊の聖観世音菩薩、岸派の猛虎図の襖絵など、丹念に撮影されている。そして中国から持ち帰られたボタンの花が隆国の子、光成公によって1576年（天正4年）に植えられたのが始まりとされるボタン寺の起源が赤やピンクの見事なボタンの花とともに紹介される。そして住職の話や金銀を産出した町の財政の豊かさなどから、今もゆとりを感じると、作者は結ばれている。タイトルの「ゆとりのボタン寺」の意味が最初分からなかったが、最後でつながります。

１３．ＹＯＳＡＫＯＩ追手筋（BD）
江村一郎　　７分３０秒

作者お得意のYOSAKOIである。今回は追手筋で行なわれたYOSAKOIを描かれている。YOSAKOIは何編も見せてもらっているが、いつも感心させられるのは踊り手の静から動への変化が巧みに描写されている点である。張り詰めた静の画から予想もしない動きに移る瞬間の映像が随所に見られる。特に今回の作品はそのような江村さんならではの映像美が如何なく発揮されているように思われる。また見物人の持つスマホに写る踊り手の映像を撮られているカットがあるが、目の付け所が違うと感服しました。